

虫歯の治療を行なった小児の保護者の方へ

ラウナ南大井デンタルクリニック ～歯科医師会より抜粋～

生活環境の改善の必要性

よく病気が治癒するといいます。治癒とは、体が元どおりに治るという事です。ところが、むし歯はけっして元どおりには治らないのです。



むし歯はけっしても通りには治りません

では、歯医者は一体何をしているのでしょうか？それは虫歯になった部分をきれいに除去して、人工物をつめたり、かぶせたりして歯を修復しているのです。当然、修復されたのものは、元の健康な歯に比べれば弱いのです。お子さんの歯をむし歯にしてしまった原因を共に考えて行きましょう。

お子様のお口をとりまく生活環境を改善していくないと、修復済みの歯もたちまち故障してしまいます。

「むし歯を直した歯は、もうむし歯にからならない」と、けっして安心してはいけません

お子様のむし歯の治療で来られたご両親に、「どうしてむし歯はできたと思いませんか？」と質問すると、たいてい「歯磨きが上手にできなかったから…」とお答えになります。しかし、本当にむし歯ができた原因是、歯磨きの不徹底だからでしょうか。口の中をのぞいてみると、案外きれいにしているのにも関わらず、奥歯の歯と歯の間がみんなむし歯になっていたり、前歯に集中してむし歯になったり、いろいろなむし歯のパターンがあります。

おやつを見直しましょう

危険度 ★ おせんべい・クラッカー・チーズ・フライドポテト・おにぎり・にぼし・りんご・

危険度 ★★ プリン・ゼリー・バニラアイス・プリン

危険度 ★★★ ケーキ・シュークリーム・ドライフルーツ・マカロン・

危険度 ★★★★ チョコレート・ドーナツ・クッキー・加糖ヨーグルト・和菓子

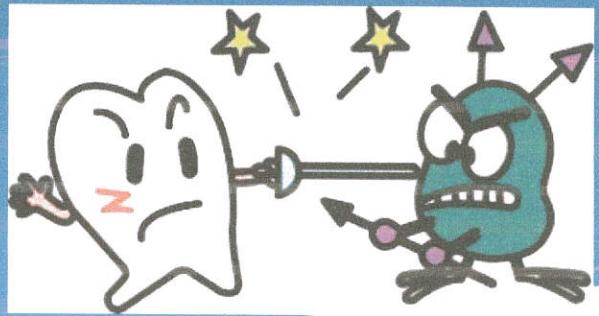
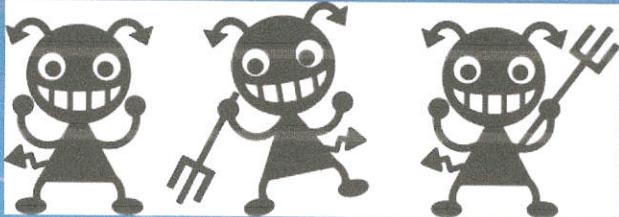
危険度 ★★★★★ アメ・キャラメル・グミ・乳酸飲料・ソフトキャンディー・ガム



歯磨きが足らなかつたなどと思わず、 生活全般を振り返りましょう

甘いものが好きなお子さん（ほとんどのお子さんがそうですが）に、むし歯がない場合もあれば、おやつの与え方には気を使っている、というお母さんのお子さんの口の中にむし歯が多数あったり、仕上げ磨きはしていないんです、というお母さんのお子さんの口の中にむし歯がなかつたりします。もし自分のお子さんの口の中にむし歯が見つかった時、すぐ歯磨きが足らなかつたなどと思わず、生活全般を振り返ってください。お子さんの口の中の状態は、生まれてから今まで、その子をとりまく環境の積み重ねの結果です。もちろん、人はむし歯をつくらない為に生きているわけではありません。子供は健康にすくすくと育ってほしいと、すべての親は考えます。

健康に育てる事、これすべてむし歯予防なのです。



親の仕上げ磨きは幼稚園まで大丈夫でしょうか？

大部分のお母さんは、卒園と同時に仕上げ磨きも卒業してしまいます。この頃、永久歯への交換時期が始まりますが、前歯ばかり気にして、6才臼歯の存在を忘れているお母さんが多く見られます。場所が奥で、お子さん自身では十分に磨けませんし、完全に萌えきらない時期が特に注意が必要です。また、萌えたばかりの歯は未熟で、あまり硬くないのでむし歯にもかかりやすのです。2年生くらいまでは毎日チェックしたいものです。3~6年生の間で、段階的に減らしていくが、最低でも週に1度はチェックしてあげてください。

乳歯はどうせ萌え変わるのであるから、むし歯になつてもかまわない？

このように考えるお母さんは、最近少ないと思います。中には4~5才でたくさんのがむし歯をつくってしまったお子さんの歯を見て、「どうせ萌え変わるのだから…」と、ご自分を納得させているお母さん・お父さんがいるのではないでしょうか。しかし、健康な永久歯列が完成するには、この乳歯で、しっかり噛んで食事をすることが大切だということを知ってほしいと思います。

乳歯がきれいな歯並びで安心して大丈夫？

6才前後で、下の前歯2本が永久歯と交換します。通常その1年前頃から、上下とも乳歯前歯がすきつ歯になり、交換間際には、大きな永久歯が萌える十分なスペースができるよう顎が成長します。この時期にし歯科医院によく訪れるのは、乳歯が抜けないうちに内側から永久歯が萌えてきた、というお子さん達です。乳歯の歯並びがきれいだからといって、顎の成長が少ないと、歯が重なってガタガタに萌えてしまいます。このような場合、すべてではありませんが、将来的矯正が必要になる可能性が高いです。必要があれば、適正な時期に矯正することをお勧めします。